

山行報告書

通算山行NO	No. 100S		報告者	来生 博子	
年月日	97年 4月 11日(金曜日) ~ 97年 4月 13日(日曜日)				
山行名	春山訓練・山スキーと登山				
山名	上越・巻機山(1,967M) 平標山(1,983M)				
コース 及 タイム	天候	11日 13:00裾野市役所発-14:40大月猿橋発-18:20民宿『やまご』着			
		12日 5:10『やまご』発-6:00桜坂の登り口発...6:50休...7:55~8:00尾根到達 ...9:00檜穴の段...10:00ブッシュの壁...10:25八合目...10:55九合目ニ巻機 ...11:50~12:00頂上...12:25九合戻り...12:40八合目...13:00檜穴の段... 15:30『やまご』戻り			
標高差	△S	≠	1,300 M	体力度	1 2 3 4 ⑤ 6
	▽T	≠	1,300 M	技術度	1 2 3 4 ⑤ 6
走行距離	裾野	~	登山口	≠	850 km
				展望度	1 2 3 4 ⑤ 6
参加者 役割	CL	後藤 隆徳	50	}	スキー隊で記録
	録	加藤 秀子	48		
	譚	河野 仁美	34		
	以	大根田元男	61	山並みが深く大変に奥深い山に入って来た気がする。	
	随	高岡八千代	59	憧れの巻機山に来て良かった。スキーはよく転んだ。	
	譚	来生 博子	48	山スキーは疲れる。私にはポーカークフェイスはできない。	
11・12日 晴れ風強し	めっきり雪の少なくなった富士山も見えなくなり車は順調に流れ、関越自動車道を走る。曇りがちの空に山がはっきり見えないが雲の切れ間に覗く山は雪が全く無い。榛名山を左に見送り月夜野町まで来ると雪山らしきがやっと見え期待する。関越トンネルに近付くと雪の谷川岳に歓声を挙げる。除々に北国に来た事を実感し、それはトンネルを出た途端に				
確かなものとして嬉しさに胸膨らむのだった。1時間も早く『やまご』に着いてしまった河野さんを待つ猿橋で摘んだノビルを、おみやげに民宿のおぼさんに渡すとすぐにおひたしにしてくれ、ビールのつまみに食す。夕飯は道中済ませて来たのでゆっくり団欒できる塩漬け保存の〈こごみ〉を一日半かけて塩抜きしたごまじょうゆかけと、うどんのごま味噌ふきのとうのごま味噌をサービスしてくれた。思いがけない田舎の春の味に話もビールも					

ピッチが上がる。

明日3時に起きる予定は、5時に発っても充分ということなのでその様に決定して寛ぐマンサクの今が盛りと咲き誇る樹林帯をスキー板を背負い、スキーブーツで登攀するが木の枝を掻き分け、掻き分け頭よりもずっと上に張り出したスキー板に突っ掛かる枝を避ける為、身を屈めたり並大抵の登攀じゃない。重くはないのだが、これだけで遅れをとるし疲れてしまう。いつもながらCLに歩調を合わせる事ができる加藤は凄い。

そんなヤブこぎを2時間近くもやって尾根にでると、これまでの苦労を忘れる程の圧巻な雪景色に目を見張る。しかし、風が強い。谷に落とされそうな突風が当たる。耐風姿勢をとって絶えることしばしばである。ますます遅れた。高校の山岳部らしい若者たちが耐風訓練をしていた。大学生らしいパーティは赤旗をたくさん背負ってどんどん先に行くCLと加藤はクラストしている頂上まで板を背負っていき滑り降りるが目的だ。私と高岡は檜穴の段に板をデポし大根田と共に板なしで頂上を極める。八合下の急登のブッシュ地帯では、アイゼン無しの河野さん登れずにデポ地点でスキーを楽しみながらCLと加藤の滑ってくるのを待つことになった。九合の二セ巻機では風が強く雪煙舞い上がりゆっくり食事もできない。檜穴の段まではかなり人がいたがガスも掛かる頂上までは数人の人だけだ。檜穴の段は広くて滑るには良さそうだが、こう風が強いと足元の安定しない私は、初めての山に臆してあまり気乗りせず。気が退けてるものだから立っては転び、ターンしては転びなので板をはずして歩いた。高岡はボーゲンで樹林帯まで滑って行く。たいしたものだ。河野さんはブッシュの壁まで登っては滑り、登っては滑りして充分楽しめた様子。

下山、登山隊が真っすぐ進む樹林帯。スキー隊の3人はそのルートを大きく右に左にと樹間を自在にしている。カッコいいよ～。満足そうな笑顔がでる。

『やまご』は今夜は貸切でなくひと組みの東京からの常連客、60代の若々しい夫婦と同宿、おたがい好きな山の話に熱が入る。明日は平標山。天気も良さそうだ。

自然
園
に
す
記
述

1. 見渡すかぎりの山、山、本当に深い山だ。
2. 黄色のマンサクがたくさん咲き揃い綺麗だった。雪解けはまだ遠そう、やはり雪国だ
3. 民宿『やまご』建て直すそうだが、都会的にして欲しくないなあ。

・ 体力度	＝ 1級・とても楽	2級・楽	3級・普通	4級・やや大変	5級・大変	6級・非常に大変
・ 技術度	＝ 1級・とても易しい	2級・易しい	3級・普通	4級・やや難しい	5級・難しい	6級・非常に難しい
・ 自然度	＝ 1級・とても悪い	2級・やや悪い	3級・普通	4級・やや良い	5級・良い	6級・非常に良い

いていた。斯く言う私は未だにボーゲン脱却出来ずにやっぱりモタモタしている。

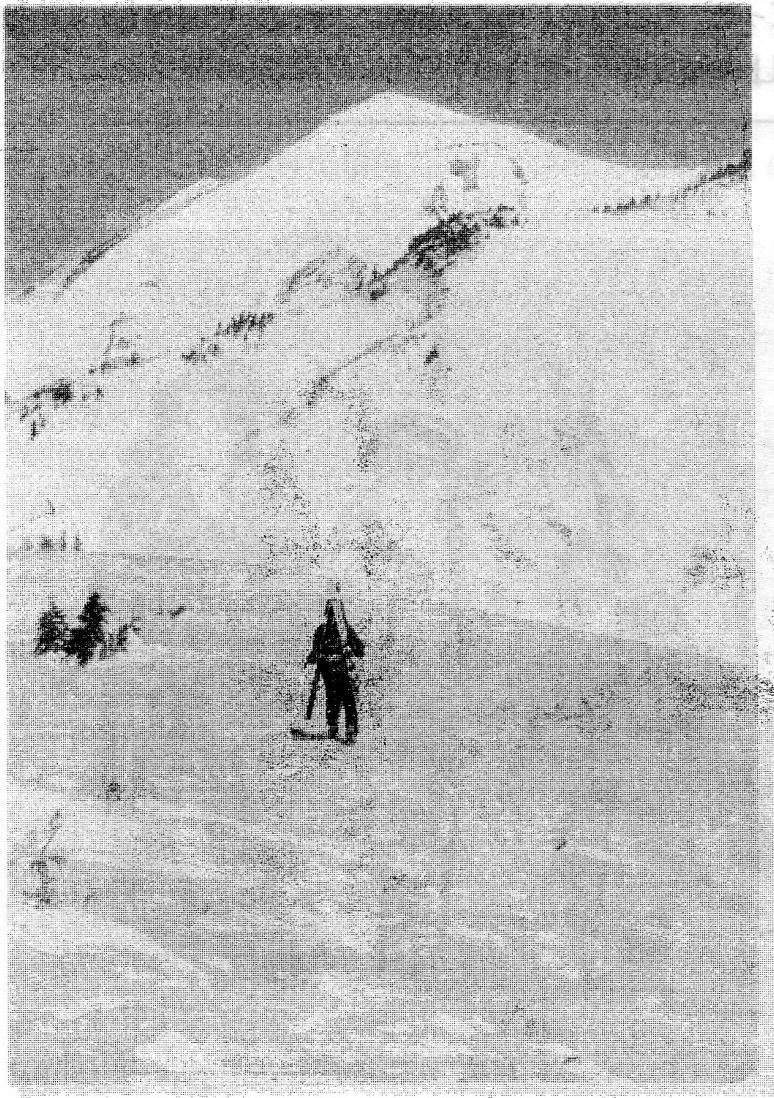
此処からの下りは井戸の壁の上の樹林帯となる。壁と呼ばれるだけあって急登の林だ。腐った雪が丁度いい。林の中を樹と樹の間をボーゲンでしっかり踏込み、潜り抜けていく。走り回れる喜びが全身に満ち溢れる。ブナの気持良い疎林が続き右下にトラバースしていくと、天狗岩と割引岳が望める展望台に出る。ここで大休止。陽射しの中で「プシュッ」と缶ビールを開ける。「シュワーッ」と溢れ出るビールの泡に慌てて口をつけ「ゴクン」と一息。「うまいッ！」心地よい運動の後の乾いた喉に、ホップが小気味よくきいた。至福の一時であった。

山スキーを始めて1年半、涙を流しながら下った八方から1年半。思い返しながら今日の感激がジワジワとこみあげてくる。嬉しくてCLに伝えると『未だ未だ。ボーゲン脱却といくら言っても、出来ていないじゃないか。進歩が全くない。』と手厳しい返事。シュンとする私に『でもまあ、まがりなりにも頂上から滑って来れたし、転ばなくなっただけでも良しとするか』と嬉しい言葉が続いた。嬉しさ倍増。『やったね！とうとうヤッタヨ！』へっぴり腰でも何でも、今日とはとにかく頑張って滑って来たんだ。初めての犬滑降にだ〜い満足。

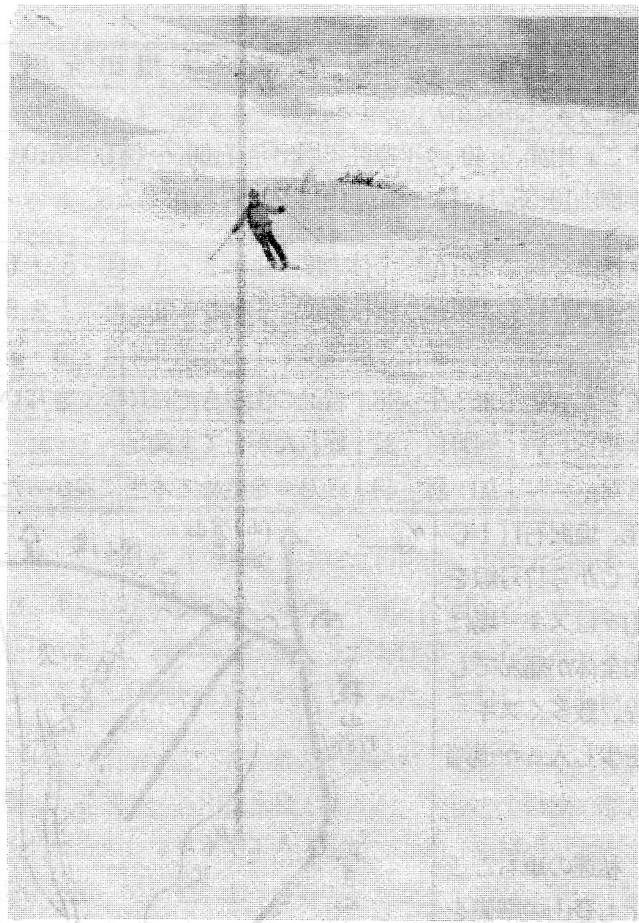
最後の下りはブッシュが多く、板を担いで下るが余韻まだ覚めやらず、足が未だ滑り足りないと言っているようだった。CLのアドバイスを頭に入れて、明日はもっと大胆に思いっきり滑ってみよう。今日以上に頑張るぞ！明日の平標山に期待で胸が膨らむ。



← 井戸の壁上にて
西復面が似合います



井戸尾根上部を登る
 バックは米子頭山(上)と割引岳(左)



山スキーは楽し

井戸尾根上部を滑る



民宿やまごの料理

山もりの
かど



ごまじょうゆ

猿橋で摘んだ
ビルのおひたし



ごまごのごまじょうゆ

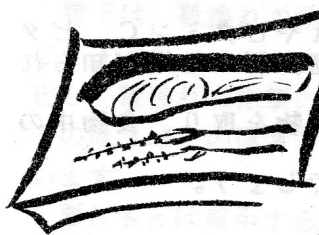
1日半かけて
塩ゆをしたもの

ビルのおひたし



山もりの
ふきのとう
の
ごまじょうゆ

朝食にめずらしいウグイスザクラを



塩じょうゆ
と
ウグイスザクラ
の塩漬
(梅干の種の中身の味がする)

食べた花穂を口で
しごいて食べる

山菜づくしの
夕飯

塩漬の保存は
さすがに土地柄
新鮮で美味しかった
きき

ますの塩焼き



ふきのとう
マヨネーズ



山くらげ
わかひ
はらか
のからし
じょうゆ



ごまごの
おひたし



ごまご
ナメ茸の
みそ汁



ごまご料理
つけもの



菊の花びら
みよなが
さゆりりの
酢の物

